

## 救急基金の歩み

### 応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成3年5月に設立された財団法人救急振興財団は、この10年間に6,235名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心肺停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上を図るためにには救急救命士の現場到着前の一般住民による応急手当が重要であり、また、近年住民の応急手当への関心も高まってきています。

そこで、こうした課題に対処するために、財団法人救急振興財団では平成4年より、皆様から寄せられた寄附金を基金として積

立て、その運用益で応急手当講習会で使用する資機材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

#### 事業の概要

##### <平成5年度～平成8年度>

住民の要請に応じて消防機関が派遣する応急手当指導員を養成する為の講習会の開催

##### <平成9年度>

寄附金募集用のポスター及び救急基金箱の作製

##### <平成10年度～平成13年度予定>

消防機関が住民向けに行う応急手当講習会で使用する資機材の寄贈

## 寄附金募集事例紹介

### 諏訪広域消防本部

諏訪広域消防本部は、長野県の中央にあるハケ岳から諏訪湖の周辺に位置しています。古くは生糸、現在は精密機械を中心としたハイテク産業が盛んな地域で、諏訪湖・ハケ岳・蓼科などの観光地が知られています。

諏訪広域消防本部は、平成11年4月1日に、岡谷市・諏訪市・下諏訪町・諏訪南行政事務組合（茅野市、富士見町、原町）の2市1町1組合の消防業務が統合して、発足し、本部は岡谷市にあります。

発足後は、あらゆる災害に対応するため、梯子車を管内どこでも出動できる体制を構

築するなど各署間の連携を強化することによって、出動体制の確立を図っております。また、救急活動については高度な救命処置ができるよう、救急救命士の養成及び高規格救急車の導入等救急高度化事業の推進に積極的に取組んでおります。救急車出動要請の際、救命士を搭乗させた高規格救急車の対応により、傷病者への高度な救命処置ができるようになりました。

応急手当の普及については、傷病者の救命効果の向上を図るため、住民向けにわかりやすい応急手当広報誌を救急医療週間中に配布し、中学生から年配者までの幅広い年齢層を対象とした普通救急講習会を年81回も開催し、延べ1,500名もの多数の方々に参加していただきました。

救急基金箱は消防署と医療機関に設置されており、主な寄付者は、病院を訪れる患者さんや消防署を訪れる住民です。

今後も引き続き住民サービスの向上に励み、住民の方々が安心できる街づくりをしていただきたいと願っております。また、応急手当の普及啓発に対する熱心さに感謝し、ますますのご活躍、ご発展を心よりお祈りいたします。



## 寄附金募集事例紹介

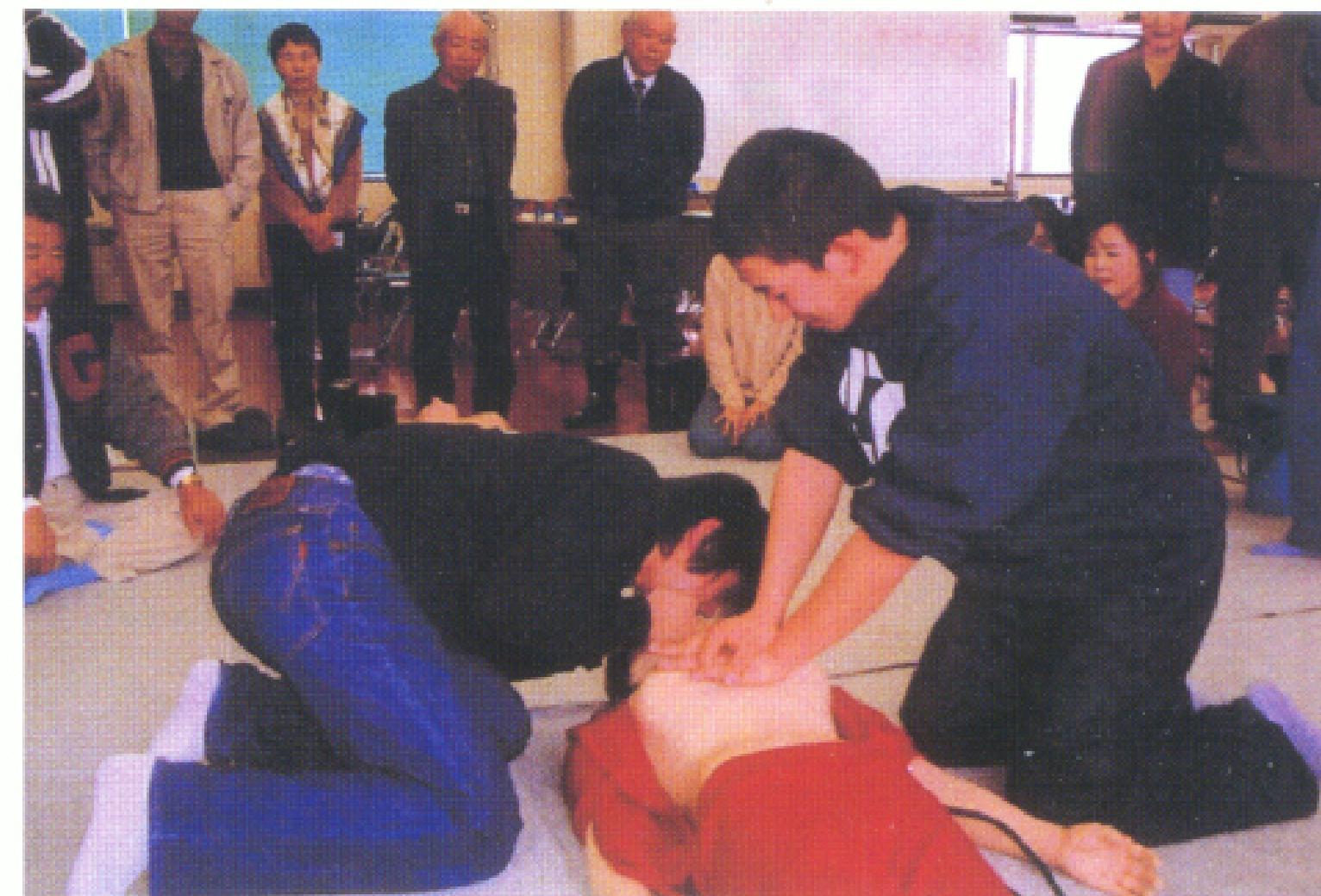
### 小出郷消防本部

小出郷消防本部は、全国屈指の米どころとして知られている新潟県北魚沼郡にあります。消防本部の周りは辺り一面田園風景が広がり、900km余の広大な管内からは、有名な越後三山が望める風光明媚なところです。

救急搬送として多いのは、山での遭難やスキー場での事故者、また最近では、進む高齢化によって搬送全体の実に49%を65歳以上の高齢者が占め、このような山間の現場への救急車の所要時間の長さも深刻な問題となっています。

このような環境から、応急手当に関して消防はもちろんのこと、住民の方々の意識も非常に高く、例えば、消防本部のある小出町には「小出中央地区コミュニティ協議会」という地域の防災や美化、ボランティアなど多岐にわたる活動をしている団体があり、その中の「温ったか地域ライフライドの会」という会が「家庭救命士」なるものを発案しました。これは、普通救命講習を家庭の留守を預かる主婦やお年寄りが中心となって受講し、自分の家や地域全体を守っていこうというものです。

現在受講者は131名で「受講者100名常時確保」を目標に、家庭救命士マップを作成するなど積極的に活動しています。他にも小中学校をはじめとして、講習会の依頼が常にあり、訓練用の人形は慢性



的に不足、加えて老朽化による故障が増えてきているため、この度、少しでも役立てていただこうと訓練用の人形、応急手当のテキストと絆創膏の3点を寄贈させていただきました。新しい人形は吹き込み量や心臓マッサージの強さが目で確認できるスキルメーター付で住民の方々にも好評のようです。絆創膏は管内の小学生に配りましたが、その際に絆創膏と赤白2枚の紙でカードを作ってもらい、そのカードを使ってYES/NO式の救急に関するクイズ大会をやり、子供達も大変喜んでいたそうです。

今後も、資機材を大いに活用し、住民の方々と相互に協力しながら、応急手当のより一層の普及を推進してほしいと思います。

### 皆様の寄附で購入しているもの



平成10年度より、皆様から寄せられた救急基金の運用益にて、

- ① 心肺蘇生訓練用シミュレーター
- ② 応急手当講習テキスト
- ③ 住民配布用の救急絆創膏

の3点を寄贈させていただいております。

これらは、各消防本部に寄贈され、一般住民向けの救急救命の講習会や指導資料として活用されています。



■平成12年度救急基金会计の决算（単位：千円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
<b>I 収入の部</b>			
1 寄附金収入	1,560	2,436	△876
2 救急基金運用収入	336	464	△128
3 雜収入	50	1	49
<b>当期収入合計 (a)</b>	<b>1,946</b>	<b>2,901</b>	<b>△955</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>1,957</b>	<b>1,959</b>	<b>△2</b>
<b>収入合計 (b)</b>	<b>3,903</b>	<b>4,860</b>	<b>△957</b>
<b>II 支出の部</b>			
1 管理費	680	278	402
2 事業費	1,400	1,166	234
3 救急基金積立支出	1,560	2,436	△876
<b>当期支出合計 (c)</b>	<b>3,640</b>	<b>3,880</b>	<b>△240</b>
<b>当期収支差額 (a) - (c)</b>	<b>△1,694</b>	<b>△979</b>	<b>△715</b>
<b>次期繰越収支差額 (b) - (c)</b>	<b>263</b>	<b>980</b>	<b>△717</b>
<b>※平成12年度末救急基金残高</b>	<b>160,426,188円</b>		

■平成13年度救急基金会计の予算（単位：千円）

科 目	予 算 額	前年度予算	増 減
<b>I 収入の部</b>			
1 寄附金収入	2,000	1,560	440
2 救急基金運用収入	620	336	284
3 雜収入	50	50	0
<b>当期収入合計 (a)</b>	<b>2,670</b>	<b>1,946</b>	<b>724</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>977</b>	<b>1,957</b>	<b>△980</b>
<b>収入合計 (b)</b>	<b>3,647</b>	<b>3,903</b>	<b>△256</b>
<b>II 支出の部</b>			
1 管理費	40	680	△640
2 事業費	1,334	1,400	△66
3 救急基金積立支出	2,000	1,560	440
<b>当期支出合計 (c)</b>	<b>3,374</b>	<b>3,640</b>	<b>△266</b>
<b>当期収支差額 (a) - (c)</b>	<b>△704</b>	<b>△1,694</b>	<b>990</b>
<b>次期繰越収支差額 (b) - (c)</b>	<b>273</b>	<b>263</b>	<b>10</b>

皆様からの寄附金は、消防本部等に設置された救急基金箱によりお寄せいただいております。救急基金箱に関するお問い合わせは下記あてにお願いいたします。

救急基金だよりNo.3 [編集・発行] 財団法人救急振興財団事務局総務課

〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-6 ☎ 0426-75-9931  
FAX 0426-75-9050